

夢がふくらむ活動の場に!

事務所を移転して、1年たちました。スペースが広がったことによって、この一年で活動が拡充し、今後の展望も構想できるようになりました。

4月のある日、学生の佐藤豊さんが事務所を訪ねてきました。見学と新たにつくった作品の展示替えをしたいとのこと。初めてのスクーリングの実現です。狭い玄関は難関でしたが、部屋ではソファベッドに横たわって過ごしました。その日、佐藤さんには、二つのサプライズがありました。

この日は、「障害児保育園ヘレン」や「障害児訪問保育アニー」のスタッフとなる「認定NPO法人フローレンス」の方々の研修初日です。参加された11名の方に、佐藤さんの学習の成果などを紹介する機会を設けました。同年代に近い方々との触れ合いは、貴重なコミュニケーションのひとつとなりました。また、「友達の佐藤友哉くんここでいっしょに活動できれば良いね!」との夢もふくらみました。

更に、本研究所は小川駅から徒歩3分。2階建ての建物は線路際にあり、電車の往き来の音がもろに聞こえてきます。研修の際には、皆さん集中していますので、思いの外気にならないと言って下さっていますが、豊さんは、窓際で電車を見て、音や振動を感じて、生き生きした表情を見せてくれました。豊さんにとってのサプライズが、この環境に付加価値を見出すことになったのです。この場所で、スクーリングすることは、心豊かな体験になるという活動の構想が見えた時でした。

現在、事務所には常時誰かがいるような状況ではありませんが、お立ち寄りいただければ、活動の様子等を展示しております。お気軽にどうぞ!

以下は、フローレンスの研修内容です。

●「重症心身障害児に関わる保育士等研修」(5日間)

第1日 コミュニケーション支援(発達 AAC 支援機器等)

重症児の介護(ポジショニング 姿勢反射 移動・移乗支援)

第2日 摂食嚥下障害に対する支援(嚥下のメカニズム 発達) 食事介助の演習等

第3日 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害及び支援に関する講義等

第4日 経管栄養を必要とする重度障害者の障害及び支援に関する講義等

第5日 他機関との連携 ・特別支援学校見学・発達を支援する遊び(感覚・ICT)

保護者への心理的配慮 研修のまとめ

特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所理事長 飯野順子



学びの風景

苗村尚江さん（平成24年度入学生）

訪問の予定がある日の前日、尚江さんのピンクの携帯電話が鳴ると、「はい、尚江です」と次の日の授業でやりたいことを自分で話して伝えます。二週間前の授業の後に話した内容を覚えていて、「スタンプやりましょう。他にありますか？」言葉を聞き取ってもらえない時お母さんを呼ぶこともあります。この日はお母さんが留守中でも1人で打ち合わせ完了。カレッジのベテランです。

次の日、尚江さんの授業は「これから、きりんカレッジを始めます」と元気な声で始まります。

さて、これは色々な大きさにカットした消しゴムです。ここにマジックペンで尚江さんが模様を描くと…こんな風になります。



そして次の訪問では、カットしたスタンプにインクをつけて作品作り。今年は自分のTシャツ。形を選んで、スタンプの色を選んで、手を遠くまで伸ばしてペタン。「せーの!」と持ち上げる瞬間にみんなでワァ!とうとう完成しました。明日さっそく通所『夢』に着ていくそうです。



Hisae ブランド名もちゃんと入ってます

岩村和斗さん（平成24年度入学生）

パソコンやiPadを使って学習しています。パソコンでは、意思伝達装置「伝の心」を使ってfacebookに日記を書いています。

にちようびとげつようびに、あたみに、おとうさんとおかあさんといっしょにいった。きょうりゅうはくぶつかんにいった。



iPadでは、白地図を使った県名当てゲームを創ったり、「スーパーマリオラン」などゲームを楽しんでいます。地図を見て県名を当てるゲームは、県のユルキャラと一緒に覚えるようにしていました。

「マリオラン」では穴に落ちないようにタイミング良く肩でスイッチを入れられるようになり、一人で最初の画面をクリアできるようになりました!



学習支援員の先生から

学習支援員として皆さんを訪問している先生方の横顔を紹介します。

ネパールトレッキング

齋藤幸子

2月初旬から25日間、ネパールを旅してきました。今回の旅の目標は、「エベレストを見る！」夫が「ガイド」を務めてくれたのですが、10キロ近くのザックを背負って歩くヒマラヤの道は、想像以上に厳しいものでした。首都カトマンズから飛行機で30分、2800mの断崖の上にあるルクラという「世界一危ない」飛行場に降り立ってから、エベレスト街道と呼ばれる山道をひたすら歩きました。車はもちろんのこと、バイクも自転車も走らない山道、荷物はポーターやロバ、ヤク等の家畜が背負って行きます。ポーターの中には100キロの荷物を背負った人もおり、この人は特別としても、大抵5～60キロは背負っていました。それでも私を追い越して行くのです。

緑豊かな風景が次第に石と岩だけになり、遠くに見えていた白い山々が目の前に迫ってくる頃になると、標高は4500mを超えていました。息は苦しく、やっとの思いで一歩一歩を踏み出すという有様だったのですが、青い空と目の前に広がる山々、遙か下の川まで続く断崖、それらがあまりに雄大で、ここであきらめるの？目標は？等と自問自答しながら歩くこと9日。ようやくエベレストを臨む、5500mのカラパタールという山に辿り着きました。登るにつれて手前の山々の向こうに徐々に姿を現すエベレスト、「これが885



0m世界最高峰の山エベレストなんだ」と思うと疲労も吹き飛びました。目標達成！です。薄い空気と氷点下の寒さ、厳しい環境ですがヒマラヤの自然は素晴らしい、の一言でした。

ネパールはヒマラヤだけではありません。カトマンズとその周辺には、古くからの王宮や寺院が建ち並ぶ歴史のある広場があり、南にはジャングルが広がっています。2年前の地震で崩れた建物がそのままになっている所も見られて、震災からの復興はまだですが、人々も親切で町は活気にあふれ、ネパールは魅力いっぱいの国でした。

本「すべての人が輝く みんなのスポーツを」の紹介

加藤徹

2020年オリンピック・パラリンピックが東京で開催されますね！人類の平和と友好の祭典が障害のある人も、ない人も一緒にスポーツを楽しめるって素敵ですよ。この本はそんな願いを実現したいということで作られました。オリンピック・パラリンピックの壁を越えてというのがサブタイトルです。

まだまだ一部のみに限られているスポーツを「指一本でも動かせることでスポーツを楽しめるんですよ！」ということを実際にやっている障害者の人たちがたくさん登場します。ぜひご覧ください。2割引一冊 1500円です。直接編著者・加藤までご連絡(070-1077-9397)ください。



情報

平成 29 年 4 月 7 日に松野文部科学大臣が、特別支援教育の生涯学習化に向けてのメッセージを発信しました。私たち訪問カレッジが目指している障害の重い方の生涯学習そのもの話ですので、全文掲載します。

特別支援教育の生涯学習化に向けて

私はかねてより、障害のある方々が、この日本の社会でどうしたら夢や希望を持って活躍していくことができるかを考えてきました。その中でも印象的だったのが、特別支援学校での重い知的障害と身体障害のある生徒とその保護者との出会いです。その生徒は高等部 3 年生で、春に学校を卒業する予定であり、保護者によれば、卒業後の学びや交流の場がなくなるのではないかと大きな不安を持っておいででした。他にも多くの保護者から同様のご意見をいただきました。

これまでの行政は、障害のある方々に対して、学校を卒業するまでは特別支援学校をはじめとする「学校教育施策」によって、学校を卒業してからは「福祉施策」や「労働施策」によって、それぞれ支援を行ってきました。しかし、これからは、障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要です。私はこれを「特別支援教育の生涯学習化」と表現することとしました。

文部科学省では、このような観点から昨年 12 月に「文部科学省が所管する分野における障害者施策

の意識改革と抜本的な拡充」を公表しました。併せて、省内の体制を確立するために「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置しました。さらに、今年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。

今後、この「障害者学習支援推進室」を中心に全国的に「Special プロジェクト 2020」や特別支援学校等における地域学校協働活動の推進、卒業後も含めた切れ目ない支援体制の整備の促進、障害のある学生への大学等における支援体制の充実等に取り組んでいきます。

各地方公共団体におかれては、障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指し、生涯学習や特別支援教育、スポーツ、文化、福祉、労働などの関係部局の連携の下、国とともに取り組んでいただきますようお願いいたします。

今週（4 月 2 日～8 日）は発達障害啓発週間です。改めて、国と地方公共団体、企業に加えて地域の皆さまとともに、障害のある方々がわけ隔てなく、互いに尊重し合いながら共生する社会の実現を目指していきたいと強く願います。

平成 29 年 4 月 7 日

文部科学大臣
松野 博一

「賛助会員」の募集



- 1 賛助会員の年会費は
 - ・個人 一口 3,000円
 - ・団体・法人一口 10,000円 です。(何口でも構いません)
- 2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用

いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。

- 3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年 2 回発行し、お届けします。
※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。
賛助会員数 個人 57 名 団体 4 (H29.5.13 現在)

【振替口座】

口座名 トクヒ)チキケアサポートケンキュウシヨ
口座番号 00110-2-616037

p. 4